

青森市議会だより

第4回 定例会の報告
令和6年11月28日～12月25日
令和7年 第1回 臨時会
令和7年1月27日

青森市議会議員：自民クラブ
柿崎 孝治



事務所が
変わりました 事務所：〒038-0058 青森市羽白野木和104-1 電話番号：017-752-9264 (FAX兼用) 携帯番号：090-4887-1907

メモリアルシップ八甲田丸について

来年、青森港は開港400年を迎えます。今年で八甲田丸が就航して60年経過した記念に合わせ、フォーラムが開催され、私も傍聴に行ってきました。その中で八甲田丸は、

- ・青森港のシンボルである。
- ・後世に残していく必要がある。
- ・国の有形文化財を目指してはどうか。
- ・大変な希少価値の高い機械遺産である。
- ・保存活用していくことが大切。

といった、様々な意見・提案がなされ、議論が活発に行われ私も感銘を受けました。

ですが一方では、大きな船体で海に浮かんでいる八甲田丸を、未来永劫、保存維持していくためには、相当な経費がかかるものと容易に想像できます。そのためには、利用者の増加が欠かせないと考えております。

Q 八甲田丸の過去5年間の入館者実績をお示ください。

A 昭和39年に就航した八甲田丸は、昭和63年に運航を終了いたしました。これまでの青函連絡船の歴史や果たしてきた役割などを伝える文化交流施設として平成2年にオープンした後、その歴史的価値が評価され、平成21年には経済産業省から「近代化産業遺産」に、平成23年には一般社団法人日本機械学会から「機械遺産」に、令和5年には日本船舶海洋工業会から「ふね遺産」に認定され、本年8月には就航60周年の節目を迎えたところ。過去5年間の入館者数については、令和元年度 71,317人、令和2年度 29,619人、令和3年度 31,247人、令和4年度 68,662人、直近の令和5年度は、86,554人、とコロナ前の水準を超える方にご来場いただいたところです。

Q 八甲田丸の過去5年間の修繕実績についてお示ください。

A 令和元年度は、落雷時等に受電設備を保護するための遮断器の取替等、計18件に320万5,963円。令和2年度は、2階多目的ホールの照明設備の改修等、計9件に190万2,120円。令和3年度は、2階受付ロビーの照明設備の改修等、計13件に325万1,710円。令和4年度は、八甲田丸係留ロープの交換等、令和4年度は、八甲田丸係留ロープの交換等、計12件に786万8,568円。令和5年度は、渡橋の修繕等、計18件に676万2,443円となっています。



感想や意見など

毎年、しっかり維持修繕を行っていることがわかりました。今後も八甲田丸を保存活用していくためには、軽微な維持修繕に留まらず、経費は高むものの長寿命化対策をしっかり行っていくことが必要であると私も思います。青森市が港から発展してきたことを考慮すれば、八甲田丸は、本市の顔であり、歴史そのものといっても過言ではないと思います。ここ青森市になくてはならない施設であり、次の世代に残していく決意表明としても、是非、就航60周年記念フォーラムでも提案のあった、国の文化財指定を目指していったくことを要望いたします。

消防団の役割について

消防団は、常勤の消防職員が勤務する消防署とは異なり、火災や大規模災害発生時に自宅や職場から現場へ駆けつけ、その地域での経験を活かした消火活動・救助活動を行う、非常勤特別職の地方公務員という認識をしております。私も議員になる前、青森市消防団第五分団の団員として5年間在籍しておりました。油川地区の火災予防消防パトロールや常備・油川分署との合同放水訓練も経験させていただいたこともあり消防団のみなさんの活躍には大変感謝しています。

Q 他都市の消防団の活躍として、秋田市での大洪水、また能登半島地震、大豪雨での洪水被害と風水や大地震の大規模災害時等への対応・活躍が報道されています。当市消防団の災害時の活動内容や訓練等の状況についてお示ください。

A 【消防団における災害時の活動内容について】一つに、火災発生時の消火活動や火災現場における警戒活動、二つに、地震や風水害などの自然災害が発生した際の住民に対する避難誘導や災害の防除活動、三つに、山岳遭難などが発生した際の遭難者の捜索活動への協力、などが挙げられます。
【消防団の訓練等の状況について】一つに、災害発生時の参集体制を確認するための非常招集訓練、二つに、建物火災や山火事などの様々な火災に対応するため、常備消防と連携して行う放水訓練、三つに、津波や風水害などの水害発生時に備え、様々な土嚢工法を習熟するための水防訓練、四つに、山岳遭難者の発生に対応するため、警察機関と合同で実施する山岳部での捜索救助訓練、五つに、消防用資器材の取り扱い習熟を目的に、常備消防と連携して行う資器材操作訓練、などを実施しています。
【今後の対応について】消防本部では今後においても、常備消防と消防団の連携強化と災害対応力向上を目的とした様々な訓練を実施し、地域防災力の充実強化に努めてまいります。

青森市営バス 「障がいのある方の利用について」

市営バスを利用する客層は年配者が多いと思います。膝や腰が悪く杖を使いゆっくり歩く姿を見かけます。最近の市営バスは低層でバリアフリー基準に適合して、手すりなどつかまる所が多くあり助かるとも聞いています。つい最近、私の地域の青森県立青森第一高等養護学校でバスの乗り方教室を開催したと聞いています。学校関係者は市営バスが直接学校まで来てくれて全校生がバスの乗り方、降り方の体験ができ大変喜んでいました。障がいのレベルもあり初めてバスに乗った生徒さんもいたようです。全校で一斉に実施することは生徒にとっても職員にとっても良い体験だったようです。さて、AOPASSが導入されて2年以上が経過し、利用すると便利なものです。市民のみなさんに広く利用していただきたいと考えます。



Q 障がいのある方を対象とした、バス利用に係る取り組みについてお示ください。

A 交通部では、バスのバリアフリー化に努め、車椅子やベビーカーでの乗車に対応した大型ノンステップバスの導入を進めています。また、障がいのある方にバスを安全・安心に利用していただくため、市営バスの乗車方法や、利用方法を体験する機会の提供に取り組んでいます。今年度は、10月3日(木)に青森第一高等養護学校において、社会に出てからも移動手段として、バスを利用していただくことを目的として、全校生徒を対象としたバス乗車体験を実施し、実際のバスへの乗車、降車体験のほか、参加した生徒とのバス利用についての質疑応答などを行いました。6月に八甲田丸で開催された「八甲田丸港フェスタ」や、9月に青森運輸支局で開催された「バスの日まつり」などの各種イベントにおいてバリアフリーバスを展示するなど、車椅子利用者を対象としたバス乗車体験を行っており、これまでも交通部では、障がい者団体と連携を図り、乗り方教室などを実施してきたところ。今後においても、障がいのある方が市営バスを安全・安心に利用できるよう取り組んでまいります。

Q AOPASSの利用状況についてお示ください。

A 青森市地域連携ICカードAOPASS等の交通系ICカードの利用状況については、直近の令和6年10月の市営バス利用者53万3,290人のうち、ICカード利用者数は30万705人で、利用率としては約56パーセントとなっています。なお、AOPASSサービス開始以降の市営バス利用者のうち、交通系ICカードを利用した方の割合が最も多かった日(令和6年1月16日(火))の利用率は、約65パーセントとなっています。

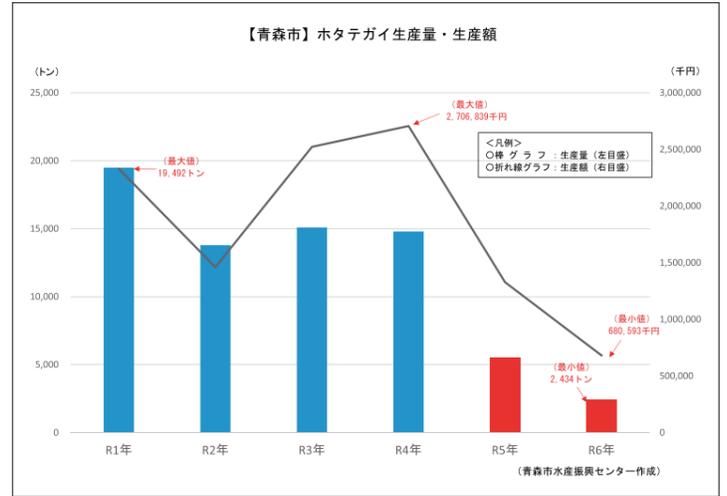
要望 バス乗車体験やAOPASSの利用拡大に向けた周知など、今後も地道に継続していただきたいと考えます。

ホタテガイについて

青森県では11月1日「陸奥湾ホタテガイ総戦略」を策定し宮下知事が今後10年後の姿を目指すことを発表されていました。今年もシーズンを通して高水温傾向が続いていました。漁業者も昨年の事実を踏まえ対策を行って今年もホタテ養殖はなんとか行けそうだと声を聞いていました。秋の「分散作業」が中盤にさしかかったあたりから首をかしげる漁業者が増えてきました。海がおかしい、何かが違う、分散している稚貝が死んで来ているなど多くの声が聞こえてきました。現在は状況を見守る状態になっています。

Q 令和元年以降における本市のホタテガイ生産量及び生産額をお示ください。

A 本市の漁業生産額は、令和元年から令和5年までの平均で23億4千万円となっており、そのうちホタテガイの生産額が約9割を占め、加工や流通などの関連産業と関わりが深いことから、ホタテガイ養殖は、青森市水産業の柱となっています。令和5年及び令和6年とホタテガイの生産量及び生産額ともに大きく減少しており、
 ・令和5年の生産量及び生産額については、その前年において、海水温等の影響によりホタテガイの大規模産卵の発生海域が少なかったことなどにより、令和4年産ホタテガイの稚貝が減少したこと。
 ・令和6年の生産量及び生産額については、令和5年7月中旬から同年10月中旬までの間の陸奥湾の高水温により、令和5年産貝の多くがへい死したこと。などが要因となっています。



要望 「むつ湾ホタテ」調査の結果は今月中に報告されます。結果がわかりたい漁業者のみならず加工業者そして関係する皆さんと調査や対策を行うことになると考えられます。そして青森市でもしっかり対応をしていただきたいと思います。



岡田橋橋梁整備事業について【予算委員会質疑】

Q 市道森林軌道廃線通り線、油川地区と富田地区を結び新城川に設置された岡田橋への歩道設置についてですが、平成10年以降当会派の大矢議員や地元の元議員や先輩議員が何度か質問や質疑を行っていた経緯があります。令和5年度から冬期間、工事を行っていますが、岡田橋橋梁整備事業の進捗状況と今後の事業内容についてお示ください。

A 岡田橋は、二級河川新城川に架かる市道「森林軌道廃線通り線」の橋梁であり、橋長約68メートル、幅員7.0メートルで、歩道が設置されていないことから、自転車及び歩行者が路肩部分を通行している状況となっています。このため、本市では、自転車及び歩行者の交通安全を確保する観点から、岡田橋沿いに歩道橋を設置することとしています。

【進捗状況について】
 平成28年度から令和元年度には、ボーリングによる地質調査を行ったほか、河川測量や橋梁形式を選定する予備設計を実施しました。令和2年度から令和4年度においては、これまでの地質調査や予備設計の成果を基に詳細設計を実施し、同時に河川管理者である青森県と、仮設工や護岸の復旧工などの河川協議を行ってきました。令和5年度からは下部工の工事に着手し、現在は河川の河道内に設置する下部工2基目の右岸橋脚について、工期を非出水期の11月初旬から3月下旬までに設定し、鋼矢板等の仮設工事、杭基礎工事、躯体工事及び護岸復旧工事を行っています。

Q 今後の事業内容についてお示ください。

A 令和7年度以降の事業内容については、下部工において左岸橋脚1か所及び左岸橋台、上部工においては桁の架設等の整備を着実に進めてまいります。

Q 第2回予算特別委員会で質疑いたしました「旧町名表示柱」修繕の実施結果をお示ください。

A 旧町名表示柱は、風化していく歴史を記録・表示し、懐かしい青森と古い歴史とに会える街づくりを進め、市民や来訪者の間に青森市の歴史や文化が再認識されることで地域の活性化を図ることを目的とし、平成5年7月に策定された「青森市旧町名ゆかりの地表示計画」に基づき、現在使われなくなった懐かしい由緒ある旧町名の由来を表示し設置。本年度は、塩町(しおまち)、浜町(はままち)の2基について修繕を行ったところです。今後は、残る9基について、引き続き、同様の修繕を行っていくこととしています。

要望 来年令和7(2025)年度は、いよいよ「青森開港400年」を迎えます。みなとまち・あもり誕生400年事業も活発化すると思われます。機運も高まります。善知鳥宮の東側から堤川の西側の間の旧町名柱で修繕が行われていない「旧町名表示柱」の修繕を早期に行うことを要望いたします。旧町名づくりは開港と同時に進めています。劣化した旧町名柱をリフレッシュさせて「あもり街てく」がガイドするお客様や市民の歴史探訪の際も修繕された旧町名柱をみていただきたいと思います。

令和7年 第1回臨時会質疑 「ホタテガイ母貝確保対策事業」について (令和7.1.27)

Q 議案第1号令和6年度青森市一般会計補正予算(第7号)、「ホタテガイ生産安定対策事業」の事業内容をお示ください。

A 令和6年12月20日に「令和6年度秋季陸奥湾養殖ホタテガイ実態調査結果」が公表され、本市においては、新貝のへい死率は、青森市漁業協同組合管内で24.1パーセント、後潟漁業協同組合管内で21.7パーセントとなっており、特に、未分散稚貝のへい死率は、青森市漁業協同組合管内で70.6パーセント、後潟漁業協同組合管内で28.7パーセントとなり、陸奥湾の平年値(12.5パーセント)を大きく上回っています。また、親貝となる新貝及び成貝の保有枚数は、市全体で333万枚となっているが、稚貝の保有枚数は1億5千391万枚で平年値(3億1千212万枚)の約半数となっています。このような状況から、本市漁業者においては、令和5年及び令和6年のホタテガイ生産量の大幅な減少に続き、令和7年以降のホタテガイ生産にも大きな影響があるものと懸念しています。さらに、本市漁業者及び漁業協同組合においては、ホタテガイ生産の回復を図るための取組を進めているところですが、漁業生産資材が高騰し、また、親貝確保のための地まき放流用ホタテガイの購入単価が上昇する等、物価高騰の影響を受けているところです。このようなホタテガイ生産量の減少及び生産資材費の高騰など、本市漁業者にとって大変厳しい環境の中で、ホタテガイ生産者を支援するため、一つに、令和8年における親貝確保及び稚貝の安定採取のため、令和7年春に出荷予定の半成貝(令和6年産貝)を、自然繁殖を促す地まき放流用として、漁協が漁業者から購入する経費を補助する「ホタテガイ母貝確保対策事業」、二つに、令和7年のホタテガイ養殖のための資材購入費への支援のため、経営活動に必要な経費(ロープ・アンカー・稚貝袋等)を支援する「漁業活動継続支援事業」を実施するものです。

Q 「ホタテガイ母貝確保対策事業」に必要な地まき放流用半成貝の確保についてお示ください。

A 「ホタテガイ母貝確保対策事業」では、計50.8トンの半成貝の地まき放流を予定しています。地まき放流用半成貝については、「令和6年度秋季陸奥湾養殖ホタテガイ実態調査結果」や市内の漁業協同組合への聞き取りから、必要量の確保は可能と見込んでいます。



お詫び

柿崎孝治議会報告No. 8において、令和4年第3回一般質問から要望していたと記載がありましたが正しくは、令和4年第4回でありました。記載間違いがあり申し訳ございません。(正)令和4年第4回と訂正させていただきます。